

日光レポート

春の東照宮

例大祭

流鏑馬

十七日(金)と十八日(土)の両日、日光東照宮の春の例大祭が繰り広げられました。初日は天候に恵まれ、午前中からの神事に平行的に、午後からは山内の下新道に設けられた全長二百二十メートル、的が三方所の特設馬



また、この日の朝、輪王寺の三仏堂では慈覚大師円仁が日光に伝えたと言われる伝統の秘舞「延年の舞」が奉納されました。この舞いは延命長寿と天下太平を祈願した天台宗の守護神・麻多羅神の秘舞で、今では全国でも二カ所のみ残されているだけとなりました。

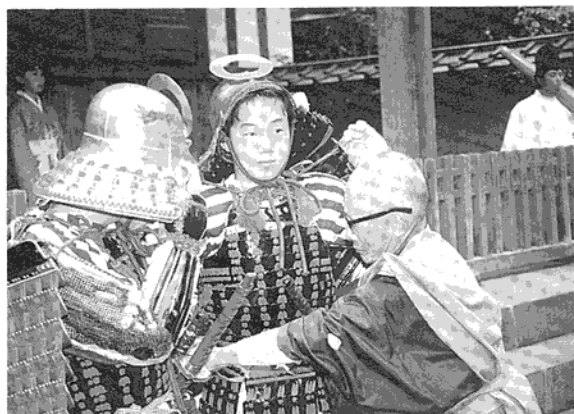
延年舞

場を舞台に恒例の「流鏑馬」が行われました。東照宮の神職や小笠原一門そして地元弓道連盟会員ら外国人も含む十九人の射手が見事に的を射抜いて神吹雪が舞うと、約五千人の観客は歓声と拍手で射手の名譽を称えました。



千人武者行列

翌十八日には、祭のフィナーレを飾る「百物揃千人武者行列」が行われました。朝から小雨混じりの肌寒い空模様でしたが、午前十一時から始まった総勢約千二百人の行列が表参道を包みこんだ深い霧の中から幻のように姿を現わすと、参道を埋め尽くした約六万人の内外観光客は寒さを忘れ、三百八十年前の栄華の夢に想いを馳せていました。



祭に先立ち、ゴールデンウィーク真最中の五月三日早朝、東西両町から約三千人が観光客で賑わう東照宮と大猷院の両境内に繰り出し、恒例の「栗石返し」がおこなわれました。

五百万個の石が動く

五月十三日(月)、野口小学校の生徒たちが田植えをしました。登校時間には冷たい小雨が降る生

野口小学校で

田植え



憎の天気でしたが、田植えの始まる時間には雲の間から薄日が差し込むまでに回復し、裸足になっ一層元気になった子供たち

花束を届けに

可愛い訪問者

ちの歓声が田んぼの周りに響きます。一年生から六年生まで、学年順に苗を植え付けましたが、交替して田の中から上がって来た生徒たちの手足はみんな泥んこだらけ。秋の収穫祭が楽しみです。

花まつりを迎えた日光幼稚園(山内)の子供たちが市役所を訪れ、小平市長に「市役所の皆さん、毎日ご苦労さまです。これからもお仕事がんばってください。」との可愛いメッセージを添えて、感謝の花束と手紙を届けました。

